へ13
3785
41

門 へ13
3785
巻 41

倭文庫

貳拾壹

編

上巻

辛亥ノ春

萬亭應賀作

一陽齋豐國画

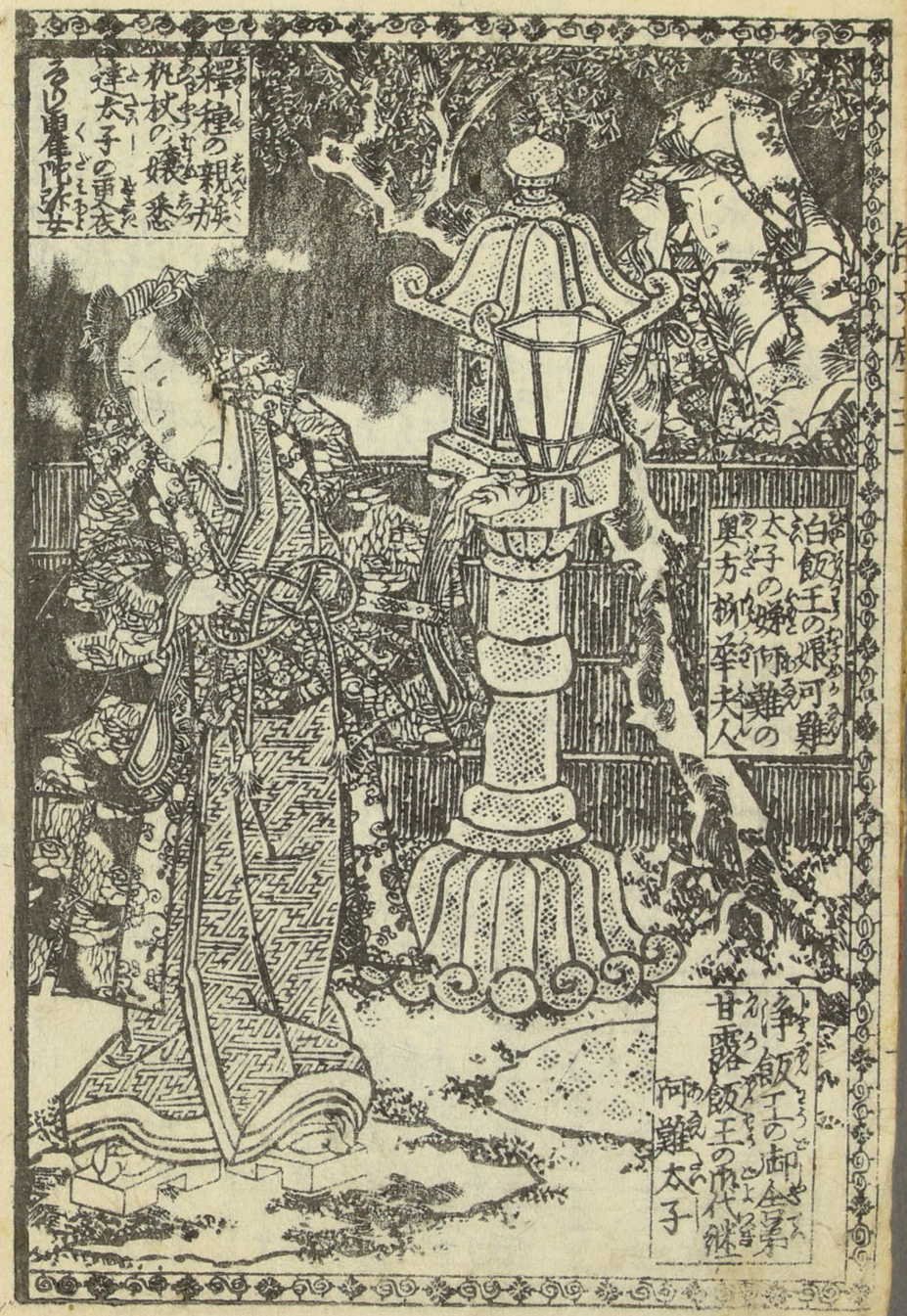
元大坂町代地角
上州屋重藏板

釋迦八相倭文庫第二拾一編之序

夫極善動天地極悪亦動天地されば功利天の帝釋天咒摩羅貧多羅阿修羅王の女舎掬夫人を奪取依之舎掬の聟羅睺阿修羅大に怒て十六万六千由旬の大身を現ト生涯の恥これに過ぎと四海の大軍をひき見城を責る帝釋十陣の隊を立守護されと終に六陣の軍乱て危けきを善法堂に入て香華薫般若の空寂を講讃させしめ天帝い舎掬を連て須弥山へ逃道ふ金翅鳥の卵ありとれと踏ぎ〳〵と走られいるの不殺生の徳ふよりて金翅鳥の助を受一此説を諸経の中より抄出〳〵其高麥のあら姫刀称〳〵ものの御側へ出せ〳〵花まきろ〳〵ぬ此巻の評判を先帝ふ

嘉永四年辛亥
孟陽吉辰發行

萬亭應賀誌


釋種の親族
杖の嬢悉達太子の更衣
耶輸陀羅女
白飯王の娘河難太子の奥方
柳華夫人
浄飯王の御舎弟
甘露飯王の代継
阿難太子

難陀太子の亭主
浄飯王の御舎弟
白飯王の嬌男
可難太子
杖の娘
瞿陀弥女

悉達太子の雪山開刹

阿修羅王嬢舍摩夫人

翅三百万里の金翅鳥

功利天喜見城の帝釋天

帝釋天羅睺阿修羅の軍を追ひ不殺生の功德を請たまふ

舍摩夫人の聟羅睺阿修羅

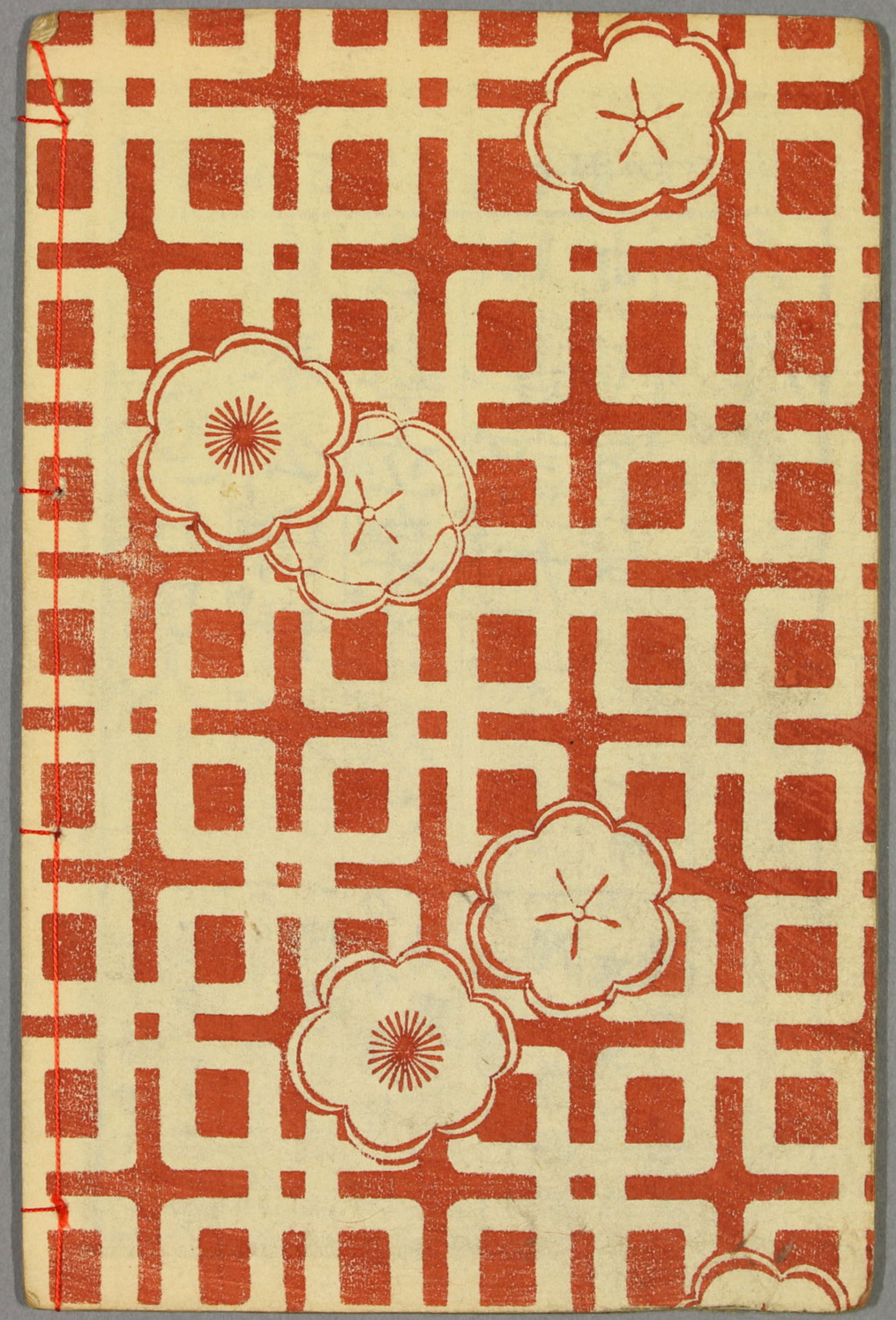
奥奉公娘一代成人双六　二編　万亭應賀作　一陽齋豊國画

奥奉公出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

武藝立身舘双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

日蓮記旭衣　三編　万亭應賀作　一陽齋豊國画

神代藻塩草　二編　万亭應賀作　一陽齋豊國画

重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續

應賀作　豊國画